

令和6年度 学校経営計画・学校評価

4月4日提出

10月3日提出

3月14日提出

学校番号

3

中芸

高等学校

課程

多(昼)

高知県の教育基本理念	(1)学が意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	基本方針	① 予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ② 多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③ 生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④ 各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備
	【アドミッション・ポリシー】(入学受け入れ方針) ○自分自身を見つめ直し、目標を持って粘り強く努力する生徒 ○ルールやマナーを守り、何事も責任感と協調性を持って取り組む生徒 ○友達や周囲の人に思いやりの心を持ち、相手の立場に立って行動する生徒 ○学校生活を大切に、様々な行事・活動等に意欲的に取り組む生徒 ○自身の可能性に向かって、何事もチャレンジ精神を持って取り組む生徒		【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○生徒一人一人の興味関心、進路希望に応えることができるよう、多様な選択科目を設定し、少人数や習熟度別によるきめ細やかな指導を行います。 ○保護者との連携、学校と地域の活性化を目指し、地域に根ざし、地域とともに伸びる活動を推進します。 ○SST、SUTの設定、SC、SSW、各専門機関等との連携により、生徒の社会性の育成や、悩み・相談等に対処できる支援体制の構築を行います。 ○生徒同士や県立山田特別支援学校山田分校との交流を図り、多様な個性を認め合う共生社会意識の育成を推進します。
スクールポリシー	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、主体的に学ぶ力や課題を解決する力、豊かな人間性・社会性を育成します。 ○基本的生活習慣の確立と生徒の自主的活動を推進し、社会的自立や社会で必要な力を育成します。 ○コミュニケーション能力などの社会性や表現力等を身に付け、他者を尊重して協働する力や、社会生活に積極的に関わる姿勢を育成します。		

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 A 】 少人数でも英検や資格試験等にも積極的に取り組んだり、授業や授業外での学習にタブレットの活用等もなされたりしているのは良い。タブレット等の活用は大切であるが、読解力や漢字をかねてきたりしている現状もみられるので、使用方法については配慮してほしい。基礎学力の定着・向上の取組や、授業外での学習時間を増やす取組等は継続して行ってほしい。
【社会性の育成】	評価 【 A 】 SST(ソーシャルスキルアップトレーニング)やSUT(セルフアンダートレーニング)の授業で学んだことを、「中芸学」での各グループ活動や発表、学校行事(文化祭等)、田野町のイベント等への積極的な参加による関係団体や地域の人々との関わりが、生徒の人間としての成長、社会性の向上につながっていると思われるので、今後も是非継続してほしい。
【チーム学校】	評価 【 A 】 年度当初、不祥事が発生し生徒や先生方にとって厳しい状況ではあったが、研修等を通して不祥事をおこさせない雰囲気や教職員にも強く意識づけられている。また、生徒支援や中芸学、文化祭等の学校行事に教職員が協力し合い、一丸となって取り組もうとする姿勢が感じられるので、さらに伸ばしてほしい。

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】		
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	○基礎力診断テストD3の割合の減少 R6[4月]:1年次D3:23% 2年次D3:12.5% ○C層以上の生徒の増加 1年46%以上、2年44%以上 ○【学校生活アンケート】「勉強が良く分かる」肯定90%以上(R5 12月肯定91%) ○授業外学習時間 1年次、2年次とも60分以上を目指す(R5 1年次39分、2年次26分【基礎力診断テスト2回目】)	・県教委授業改善校内チームによる授業研究・校内研修【国、数、英、理、地公】 ・学び直し(数 5分間テスト 年18回) ・朝の課題テスト(英数国 各教科年4回実施) ・One-Weekの活用 ・生徒の実態に合わせて、すららドリル等を効果的に活用する。 ・遠隔教育システムの活用 ・定期考査発表時に学習計画を作成 ・学習支援員の活用 ・ICTの活用(Chromebook含む)	B	○基礎力診断テストD3の割合の減少 R6[11月]:1年次D3:46% 2年次D3:17% ※[4月]1年次C層8% →[11月]1年次C層31% ※[4月]2年次C層25% →[11月]2年次C層33% ○【学校生活アンケート】「勉強が良く分かる」肯定90%以上(R6.6月現在 肯定69%) ○【学習に関するアンケート】授業外学習時間 1年次、2年次とも60分以上を目指す(R6.7月現在 1年次38分、2年次34分)	【目指す生徒像】の再確認 ・「自分を伸ばしたい」と考え、行動できる生徒 ・朝の課題テストにおける課題の提出の徹底、学び直し(数学5分間テスト)の事前課題の徹底(家庭学習の増加につなげる) ・定期考査発表後、放課後の自主的学習を奨励 教科の特色を生かし、思考力・表現力、主体的な学びの実現に向けた授業づくりの実践	B	○基礎力診断テストD3の割合の減少 R6[11月]:1年次D3:46% 2年次D3:17% ※[4月]1年次C層8% →[11月]1年次C層31% ※[4月]2年次C層25% →[11月]2年次C層33% ○【学校生活アンケート】「勉強が良く分かる」肯定90%以上(R6.12月現在 肯定91%) ○【学習に関するアンケート】授業外学習時間 1年次、2年次とも60分以上を目指す(R6.12月現在 1年次16分、2年次45分)	【目指す生徒像】 「自分を伸ばしたい」と考え、行動できる生徒 ・自身の将来の目標(長期目標)や定期試験等の目標(短期目標)をもつことができるよう、手帳を活用したりキャリア教育の充実を図ったりすることで、学力向上につなげる。 【指標】 ・【基礎力診断テスト】D3の減少、C層の増加 ・【学習に関するアンケート】授業外学習時間
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○【学習に関するアンケート】挨拶ができた。90%以上(R5 12月 83%) ○ソーシャルスキルアップトレーニング(SST)、セルフアンダースタンディングトレーニング(SUT)、中芸タイム、中芸学等の評価及び生徒の振り返りによる自己評価の分析 ○高知県オリジナルアンケート 自己肯定感に関する項目 全学年平均60%以上(R4 45.0% R5 56.9%) ○部活動の加入率及び部活動の実質的な継続 90%以上(R4 100% R5 100%)	・SH及び授業での挨拶の励行 ・部活動の活性化 ・新入生仲間づくり研修(1年) ・SSTの実施(1年)、中芸タイム(2年) ・SUT(通級1、2、3年) ・インターンシップ(2年)、修学旅行(1・2年) ・中芸学(全学年)【地域交流】他 ・地域のイベントへの参加	B	○【学習に関するアンケート】挨拶ができた。90%以上(R6.7月 86%) ○ソーシャルスキルアップトレーニング(SST)、セルフアンダースタンディングトレーニング(SUT)、中芸タイム、中芸学等の評価及び生徒の振り返りによる自己評価の分析 ○高知県オリジナルアンケート 自己肯定感に関する項目 全学年平均60%以上(R6.6月現在 69.2%) ○部活動の加入率及び部活動の実質的な継続 90%以上(R5 100% R6.4月 100%)	【目指す生徒像】の再確認 ・「ルールやマナーを守り、何事もやる気をもって取り組む生徒」 ・「友達や学校生活を大切にできる生徒」 1年…SUTで得られた知見をSSTで実施 2年…中芸タイム、学校企業訪問、インターンシップ等進路への意識を高める指導 3年…進学・就職の最終指導 ・全校集会等での生活指導及び個別の支援・指導を行う。学校行事等で生徒会を中心に、生徒が主体的に活動できる場面を設定する。	A	○【学習に関するアンケート】挨拶ができた。90%以上(R6.12月 88%) ○ソーシャルスキルアップトレーニング(SST)、セルフアンダースタンディングトレーニング(SUT)、中芸タイム、中芸学等の評価及び生徒の振り返りによる自己評価の分析 ○高知県オリジナルアンケート 自己肯定感に関する項目 全学年平均60%以上(R6.12月現在 72.3%) ○部活動の加入率及び部活動の実質的な継続 90%以上(R6.12月 100%)	【目指す生徒像】 「ルールやマナーを守り、何事もやる気をもって取り組む生徒」 「友達や学校生活を大切にできる生徒」 ・基本的生活習慣の確立 ・SSTや中芸タイム等での学びを中芸学やインターンシップなどで生かせる場面づくり 【指標】 ・【学習に関するアンケート】挨拶の励行 ・高知県オリジナルアンケート
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	・中芸学発表会、「総合的な学習・探究の時間」中芸地域中高合同発表会を実施 【評価指標】 ・高知県オリジナルアンケート 地域貢献に関する項目 問20、21 50%以上 ・地域及び各関係機関との連携回数5回	・田野町を中心とするイベント等へ参加 ・地域清掃活動、交通安全街頭活動等の実施 ・中芸学の取組の継続・発展→高知大学、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会、北川村観光協会等との連携を継続 ・教職員に対して、中芸地域に関する内容の講演やフィールドワーク等を実施	A	・中芸学発表会、「総合的な学習・探究の時間」中芸地域中高合同発表会を実施 【評価指標】 ・高知県オリジナルアンケート 地域貢献に関する項目 問20 77%、問21 66% (R6.7月現在) ・地域及び各関係機関との連携回数6回(R6.9月現在) 安芸署(2回)・田野町関係(2回)・中芸のゆずと森林鉄道日本遺産事務局(2回)	○12月18日に実施する中芸学発表会、「総合的な学習・探究の時間」中芸地域中高合同発表会に向けての各グループでの取組を、充実させる。 ・田野町役場との連携(7グループ中4グループが田野町関係) ・田野町内で開催されるイベントへの参加 ・関連団体との連携	A	・中芸学発表会、「総合的な学習・探究の時間」中芸地域中高合同発表会を実施 【評価指標】 ・高知県オリジナルアンケート 地域貢献に関する項目 問20 69.3%、問21 70.0% (R6.12月現在) ・地域及び各関係機関との連携回数6回(R6.12月現在) 安芸署(2回)・田野町関係(2回)・中芸のゆずと森林鉄道日本遺産事務局(2回)	・中芸学発表会までの取組むプロセスを大切に、各年次での取組について継続して深めてゆく。 ・引き続き地元中学校との合同発表会を実施する 【指標】 ・高知県オリジナルアンケート
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	・各教科で、タブレット端末を用いた学習を行っている。 ・生徒同士が自ら考え、行動・意見交換をする集団活動の場を設定している。 【評価指標】 ・授業改善チェックシート【教員】の肯定評価について教職員の80%以上	・総合的な探究の時間(中芸学)において、各教科の学びの内容を活かして、教科横断的に学習し、学びを深める。 ・キャリアパスポートや手帳を活用した目標設定 ・各教科間の連携・交流、教科連絡会の実施	B	・各教科で、タブレット端末を用いた学習を行っている。(R6.7月現在 58.8%) ・生徒同士が自ら考え、行動・意見交換をする集団活動の場を設定している。(R6.7月現在 94.1%) 【評価指標】 ・授業改善チェックシート【教員】の肯定評価について教職員の80%以上	・各教科担当は、タブレット端末を、教科の特性や単元の内容に応じて使用する。 ・中芸学の発表に向けて、発表内容を深め、発表資料作成づくりにおいては、グループホームや共有ドライブを積極的に活用する。	B	・各教科で、タブレット端末を用いた学習を行っている。(R6.12月現在 70.6%) ・生徒同士が自ら考え、行動・意見交換をする集団活動の場を設定している。(R6.12月現在 82.4%) 【評価指標】 ・授業改善チェックシート【教員】の肯定評価について教職員の80%以上	・生徒の実態に応じてさらにICTを活用する。デジタルのよさを活用しながらも、思考の定着がなされるよう取り組む。 ・中芸学ではICTを積極的に活用する。 【評価指標】 ・授業改善チェックシート

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】		
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○「中芸学」を通じた地域貢献 ○「通級による指導」の充実	・中芸学の各年次グループ活動において、中芸地域の企業、団体、個人等を通して地域社会と関わり課題解決に向け、学びを深めている。 ・通級の指導内容については、試行錯誤を繰り返している段階である。 【評価指標】 ・高知県オリジナルアンケート 地域貢献に関する項目 問20、21 50%以上 ・通級による指導の年間指導計画及び取組を充実させる。	・地域清掃を地域のフィールドワークを兼ねて実施し、本校をPRする。 ・地域の企業を訪問し、進路を見据える目的を達成しつつ、交流の場とする。 ・学校運営協議会等を通して地域の意見を把握するとともに、地域のコーディネーターとして活動の支援をしていただく。 ・高知大学教職大学院と連携し、通級による指導を充実させる。	A	・中芸学の各年次グループ活動において、中芸地域の企業、団体、個人等を通して地域社会と関わり課題解決に向け、学びを深めている。 ・通級の指導内容については、試行錯誤を繰り返している段階である。 【評価指標】 ・高知県オリジナルアンケート 地域貢献に関する項目 問20 77%、問21 66% (R6.7月現在) ・通級による指導の年間指導計画及び取組を充実させる。	・12月に実施する発表会に向けて、関連団体等とさらに関わりを深め、地域に出たり、地域で開催される催しに参加することにより、発表内容を完成させてゆく。 ・通級の指導内容については、生徒の実態に応じて試行錯誤を繰り返している。	A	・中芸学の各年次グループ活動において、中芸地域の企業、団体、個人等を通して地域社会と関わり課題解決に向け、学びを深めている。 ・通級の指導内容については、試行錯誤を繰り返している段階である。 【評価指標】 ・高知県オリジナルアンケート 地域貢献に関する項目 問20 69.3%、問21 70.0% (R6.12月現在) ・通級による指導の年間指導計画及び取組を充実させる。	地域とのつながりと貢献 ・総合的な探究の時間である中芸学の活動を通して、関係機関、地域の企業・団体等と繋がりが、貢献できることを継続する。 ・学校運営協議会委員とのさらなる連携を図る。 ・通級の指導内容については、生徒の実態に応じて対応する。 【指標】 ・高知県オリジナルアンケート
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題 ※教職員の悩みを管理職に話すことができていない状況である。 ○校内研修の実施回数(年3回以上) ○不祥事防止委員会の実施回数(年3回以上)	・日頃から教職員間のコミュニケーションを大切に、何でも言い合える、風通しの良い職場を作る。 ・お互いが、公私について話しやすい雰囲気を作る。 ・管理職と教職員間の信頼関係を構築する。 ・不祥事防止に関するチェックシート等の実施	C	○現状課題 ※教職員の悩み等を管理職に話すことができていない状況であるが、さらに体制を整える。 ○校内研修の実施回数(10回 R6.9月現在) ○不祥事防止委員会の実施回数(4回 R6.9月現在)	・継続して校内研修等を実施する。 ・管理職は、日々教職員に声をかけて、困りごとがないのか、不安なことがないのかを、特に気に掛ける。	C	○現状課題 ※教職員の悩み等を管理職に話すことができていない状況であるが、さらに体制を整える。 ○校内研修の実施回数(15回 R6.12月現在) ○不祥事防止委員会の実施回数(7回 R6.12月現在)	継続して不祥事を起こさせない職場環境になるよう取り組む。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○学校組織改革と教職員の働き方改革 ○ICTの活用	【令和5年度:45時間以上】 4月:7名、5月:2名、6月:8名、7月:1名、8月:0名、9月:5名、10月:5名、11月:1名、12月:0名、1月:0名、2月:3名 【評価指標】 ・月ごと超過勤務時間45時間以上を3名以内とする。	・ICTを活用し、仕事の効率化を図る。 ・管理職による仕事の進捗状況の確認 ・管理職を含め教職員同士で勤務を早く終え、帰宅するように互いの声が行う。	B	【令和6年度:45時間以上】 4月:4名、5月:6名、6月:3名、7月:1名、8月:0名、9月:4名 【評価指標】 ・月ごと超過勤務時間45時間以上を3名以内とする。	・分掌内において、個々の仕事に偏りがなにかチェックする。 ・管理職が仕事の進捗状況を把握し、指導・助言する。 ・声かけの継続実施	B	【令和6年度:45時間以上】 4月:4名、5月:6名、6月:3名、7月:1名、8月:0名、9月:4名、10月:5名、11月0名、12月0名、1月0名 【評価指標】 ・月ごと超過勤務時間45時間以上を3名以内とする。	・管理職による仕事の進捗状況の確認 ・声掛けの継続実施 【評価指標】 ・月ごと超過勤務時間45時間以上を3名以内とする。